2022 年　夏号　No.53 （2022 年 7 月 29 日発行）

只見町ブナセンターだより

＜ごあいさつ＞

　史上最も早い梅雨明け（6 月 29 日）が発表された東北地方ですが、しばらく続いていた猛暑は落ち着き、また梅雨のような雨模様が戻ってきました。野外ではニイニイゼミやエゾゼミが盛んに鳴き、エゾエノキの梢をオオムラサキが飛び、山裾ではサシバの巣立ち雛が観察できる季節となっています。さて本号では、2022 年度上半期に催した観察会や講座などを中心にレポートするほか、8 月から始まる写真展「この写真、どこ、だれ、何してる？ ― 皆川文弥が撮った只見線が開通した頃の只見 ―」をご案内します。ふるさと館田子倉では初の企画展です。この機会にぜひ、ふるさと館田子倉へ足をお運びください。

========== 開　　催　　中 ==========

【企画展】「只見のカエル」

▲アズマヒキガエル

▲シュレーゲルアオガエル

▲展示の様子

▲ヤマアカガエル

　只見町のカエルは、奥山に足を踏み入れなければ出会えないわけではなく、私たちの生活圏にも暮らす身近な存在です。森林内の池沼や渓流のみならず、水田、公園の池、市街の脇を流れる河川など、奥山から人里近くまで、様々な水辺から聞こえてくる合唱から身近なカエルの多様性を感じ取ることができます。本企画展では、只見に生息する多様なカエル達について、多数の写真を中心としたパネルで楽しく学んでいただけます。また、町内に生息するカエル全種の生体を展示。普段見ることが難しい姿をじっくりとご覧いただけます。

■会　期：2022 年 6 月 11 日（土）～ 2022 年 9 月 12 日（月）＊開催中！

■場　所：ただみ・ブナと川のミュージアム　2 階ギャラリー

========　開　催　案　内　========

【写真展】

「この写真、どこ、だれ、何してる？
― 皆川文弥が撮った只見線が開通した頃の只見 ―」

この写真展は、田子倉館に展示している多くの資料を収集された皆川氏が生前に撮りためた写真ネガの中から、テーマ別に抜粋したものです。

年代や場所、建物の名称など、分かる写真もありますが、不明な写真も少なくありません。そこで、実際にご覧頂き、「この場所知ってる！」「これはあそこの建物だ！」など、何でも教えてください。教えて頂いた情報も展示に加えることによって、一枚一枚の写真を甦らせることができます。

見る人によって懐かしく思えたり、新鮮に感じたり。世代を問わず、みなさんと作り上げるそんな写真展です。只見線開通の日のお宝写真もあります。

この時期に、是非ふるさと館田子倉の展示会場へお越しください。

■会　期：2022 年 8 月 11 日（土）～ 11 月 28 日（月）

■場　所：ふるさと館田子倉　2 階　会議室

========== 活　動　報　告 ==========

【講座】

「意外と知らない？只見のカエルとその多様性」：6 月 18 日

▲講演をする吉川夏彦氏

国立科学博物館動物研究部研究員の吉川夏彦氏をお招きし、只見振興センターにて、只見町に生息するカエルの多様性をテーマとした講演会「意外と知らない？只見のカエルとその多様性」を開催しました。只見に暮らすカエルの特徴や生態、特徴的な形態について解説していただきました。

【自然観察会】

「吉川さんと水田のカエルに会いに行く !」：6 月 18 日

講演会に引き続き、吉川氏を講師として夜の観察会「吉川さんと水田のカエルに会いに行く !」を開催しました。参加者は 20 名でした。ニホンアマガエル、トノサマガエル、ツチガエルの姿が見られたほか、この３種にシュレーゲルアオガエルとモリアオガエルを加えた５種の鳴き声を聴くことができました。また、トウホクサンショウウオやシロマダラなど、カエル以外の希少な生きものも姿を見せてくれました。これらの生きものは夜行性の傾向が強く、活発な姿を見ることができたのは夜の観察会ならではです。

子ども達は普段は見ることのできない貴重な生きものの姿に大興奮でした。

▲トノサマガエル

▲ニホンアマガエル

▲カエルを観察する子どもたち

▲トウホクサンショウウオ

▲ツチガエル

▲シロマダラ

「春の花観察会」: 4 月 30 日

▲春植物を撮影する参加者

「春の花観察会」は 10 名の方々にご参加いただきました。温泉施設「湯ら里」の裏手に広がる余名沢の森林内を歩き、春植物を観察しました。

まだ開葉が始まっていないミズナラの二次林では、多くのカタクリを見ることができました。 一方、かつて薪炭林として利用されていたブナ二次林では、林床の雪が解けているにも関わらず、春植物は見当たりません。春植物は、雪解けから樹木の葉が茂る前の短い間に花を咲かせ、種子を散布します。多年生である春植物は、その間に多くの日光を必要としますが、開葉が早いブナは、春植物が実を結ぶ前に林冠を覆ってしまいます。そのため、混みあったブナ二次林の中は、春植物が暮らしていくには適さないのです。ブナ林内とは打って変わって、陽当たりのよい用水路沿いの林縁では、カタクリ、キクザキイチゲ、コシノコバイモなどの春植物の他、可愛らしい常緑のイワナシの花も見られました。参加者の皆さまはここぞとばかりに撮影されていました。

「新緑のブナ林観察会」: 5 月 1 日

▲新緑のブナを背景に記念撮影

「新緑のブナ林観察会」は 11 名の方々にご参加いただきました。当日は快適な曇り空の下、多様な森林の特徴を知っていただくことを目的に「癒しの森」を歩きました。

松坂峠の入り口から森に入っていくと、最奥にブナが優占するエリアがあります。そこでは原生的なブナ林や薪炭利用されてきたブナ二次林、スギとブナの混交林などが観察できます。類似した環境下で生育するブナとスギですが、樹冠の特徴が異なります。ブナの樹冠は空を広く覆う形状なのに対し、スギは尖った形状です。そのため、ブナとスギが同じ高さで接している場合、ブナの樹冠がスギを覆い、次第にブナが優占していきます。こうした樹種による生態的な特徴のほか、雪で倒れたオオヤマザクラや、「ヤマナシ」の名称でジャムも製造されているオオウラジロノキを観察しました。

参加者は、癒しの森の特徴について理解を深めながら、新緑と残雪のコントラストが美しい春のブナ林を満喫することができました。

「春から初夏の野鳥観察会」：全３回分レポート

４月から６月の毎月最終日曜日に、野鳥観察会を催しました。１回目（4/25・黒谷川流域）は 11 名、２回目（5/29・恵みの森周辺）は 14 名、３回目（6/26・新田沢）は 11 名の参加がありました。繁殖期に観察できる野鳥を対象として、毎回場所を変えて探索し、展葉期に当たる５月・６月は目視に頼らない、鳴き声による識別にも挑戦しました。確認された種はリストの通りです。全３回分をまとめると、延べ 48 種が確認されました。

夏鳥は特にオオルリが多く、恵みの森周辺や、新田沢の渓流沿いの木の梢でさえずる雄が観察されたほか、藪を好むウグイスや、林縁を好むホオジロ、また様々な環境を利用するキジバトやヒヨドリも、全ての回で確認されました。只見町を代表する夏鳥・アカショウビンは、新田沢でさえずりが２回だけ聞かれましたが、数は少ない印象でした。猛禽類ではトビが各所で観察されたほか、黒谷川では採餌するサシバや、飛翔するクマタカなどが見られ、参加者は夢中で写真を撮られていました。また、寒冷地を好む珍しいニュウナイスズメが黒谷地区の集落で見られたほか、水辺を好むホオジロ科の希少種・ノジコが恵みの森周辺で確認されました。

No.	目名	種名	1回目 4月25日 黒谷川	2回目 5月29日 恵みの森	3回目 6月26日 新田沢
1	カモ	オシドリ		●	
2		カルガモ	●	●	
3	ハト	キジバト	●	●	●
4		アオバト		●	
5	ペリカン	アオサギ	●		
6	チドリ	イカルチドリ	●		
7		コチドリ	●		
8		イソシギ	●		●
9	タカ	トビ	●	●	●
10		サシバ	●	●	
11		ノスリ		●	
12		クマタカ	●		
13	ブッポウソウ	アカショウビン			●
14		カワセミ		●	
15	キツツキ	コゲラ		●	●
16		アオゲラ	●	●	
17	スズメ	サンショウクイ		●	●
18		モズ			●
19		カケス	●	●	
20		ハシボソガラス	●		●
21		ハシブトガラス	●		
22		ヤマガラ		●	●
23		ヒガラ			●
24		シジュウカラ		●	●
25		ツバメ	●		●
26		イワツバメ	●		
27		ヒヨドリ	●	●	●
28		ウグイス	●	●	●
29		ヤブサメ			●
30		エナガ		●	●
31		オオムシクイ		●	
32		センダイムシクイ			●
33		メジロ			●
34		ミソサザイ	●		
35		ムクドリ	●		●
36		カワガラス	●		●
37		クロツグミ			●
38		ツグミ	●		
39		キビタキ			●
40		オオルリ	●	●	●
41		ニュウナイスズメ	●		
42		スズメ	●		
43		キセキレイ	●		
44		ハクセキレイ	●		●
45		カワラヒワ	●		
46		イカル	●	●	
47		ホオジロ	●	●	●
48		ノジコ		●	
計	8目	48種	29種	22種	25種

▲観察会で確認された野鳥一覧リスト
表中の「●」は、観察地で確認されたことを示す

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

なお、参加者の皆さまから、継続した開催のご希望を頂きましたので、秋から初冬にかけても野鳥観察会を企画する予定です。

▲クマタカ：環境省および福島県レッドリストで絶滅危惧 IB 類に該当

▲オオルリ：渓流沿いの森林を好む夏鳥。雄は瑠璃色が美しい

▲ニュウナイスズメ：寒冷地で繁殖するスズメ。やや珍しい

▲キセキレイ：河川上流域で繁殖。黄色い腹側が特徴

▲ホオジロ：只見では夏鳥で、おもに林縁を好む

▲ノジコ：環境省および福島県レッドリストで準絶滅危惧に該当

【教育支援】

町内小学校の教育を支援

▲只見小３・４年生と小川沢で校外学習（７月７日）

只見町ブナセンターでは小学校の授業支援を行っており、本年度は町内 3 つの小学校への講師派遣に対応しています。只見小学校 3・4 年生を対象にした、環境の異なった町内の３河川における水生生物を調べた校外学習では、ブナセンター指導員が採集された生きものや、比較したい環境条件について解説しました。良好な環境の河川では、絶滅危惧種のカニギンモンアミカや、県内では稀なヒメサナエなど、珍しい水生昆虫が確認され、多様な生きものが生息することを学びました。

明和小・朝日小の校外学習では「恵みの森」や「癒しの森」を案内し、人が森を活用してきた歴史を紹介するとともに、同じブナ林でも二次林と天然林の違いがあることを説明しました。今後も町内のビオトープ等様々な環境を活用して、小学生の学びの支援をしていきます。

高校生の森林実習を指導

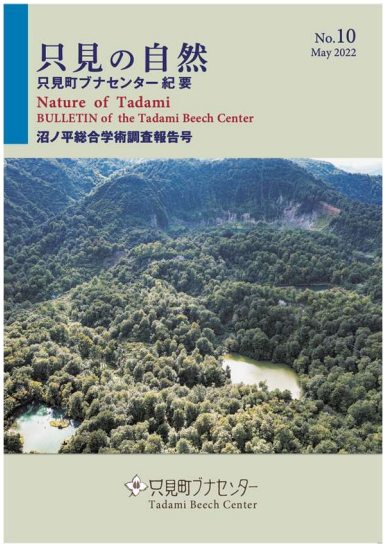
福島県立会津学鳳高校からの依頼で、文部科学省のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の課題として、約50名の生徒に只見町の森林を対象とした現地調査を指導しました。

1 日目は、ただみ・ブナと川のミュージアムを見学後、布沢地区の癒しの森で、原生的なブナ林とかつての薪炭材生産の後に再生してきたブナ二次林を調査し、それらの違いを検討してもらいました。2日目は、活用が進んだ森林として、深沢地区の落葉広葉樹二次林とスギ人工林を調査し、人の関わりを検討しました。

生徒たちは得られたデータを学校に持ち帰り、只見町の多様な森林の成立ちについて検討し、報告する予定です。

【沼ノ平地域総合学術調査報告会開催　/　紀要 No.10 発売】

▲報告会会場の様子



▲紀要 No.10
価格：3,000 円（税込）

只見町では 2017 年から 2020 年までの 4 年間、新潟大学名誉教授の崎尾先生を団長に「沼ノ平地域総合学術調査」を行いました。沼ノ平地域は浅草岳のふもとに位置していますが、地すべり地帯で危険であること、2011 年の新潟・福島豪雨災害で大きく地形が変化したことなどから立ち入りが制限されている地域です。

この調査では、地すべりや地表変動が多い特殊な地形と、様々な池沼群の存在により、町の面積のわずか 0.4%という面積に様々な動植物が生息しており、生物多様性の高い地域であることが報告されました。今後、調査結果をもとに、沼ノ平地域の保全について検討していく予定です。

また、本調査をまとめたブナセンター紀要 No.10 が発売されました。報告の中では、沼ノ平地域全体が長期間にわたって移動していることや、多様な環境に 8 種類の植生があること、本州初記録の昆虫や新種の可能性のあるオサムシ類など、膨大な調査の成果がまとめられています。沼ノ平地域の 4 年にわたる調査研究の結果をぜひお手に取ってお確かめく

ださい。郵送によるご購入も受け付けております。詳しくは HP をご覧になるか、只見町ブナセンターまでお問い合わせください。

========== お　知　ら　せ ==========

【販売書籍紹介】

企画展解説シリーズ 17「只見のカエル」

本書では、只見に生息する多様なカエルについて、多数の写真を交えて解説。只見の森と水辺の住人である彼らについて学べます。また、彼らの生態を通して、只見の水辺環境についても知ることができます。「ただみ・ブナと川のミュージアム」と「ふるさと館田子倉」店頭、あるいは通信販売にてご購入いただけます。詳細はブナセンターホームページをご覧ください。**■価格：500 円（税込）**

▼ ▼

只見町ブナセンター　令和 4 年度行事一覧（予定）

	開催期間	会場とタイトル
企画展	2022/6/11 ～ 9/12	ただみ・ブナと川のミュージアム 企画展「**只見のカエル**」
	2022/8/11 ～ 11/28	ふるさと館田子倉 写真展「**この写真、どこ、だれ、何してる？ ― 皆川文弥が撮った只見線が開通した頃の只見 ―**」

<編集後記>

今年はマイマイガが多く発生しており、特に町の西部から中部では多数の幼虫が確認されています。6 月に蒲生岳を登った際には、ミヤマナラの低木林や岩場を夥しい数の幼虫が這っていました。7 月には、幼虫によって葉を食いつくされてしまったブナやカエデ類、ヤナギ類などの落葉樹が、遠目に茶色く見えるほどに。幼虫の天敵・クロカタビロオサムシもまた、今年は多いように感じられます。マイマイガは既に成虫となり繁殖活動をしていますが、この大発生がいつまで続くのか注視したいと思います。（太田）

発行 **只見町ブナセンター**　〒968-0421　福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

只見町ブナセンター

電話　0241(72)8355　　**ホームページ**　http://www.tadami-buna.jp

FAX　0241(72)8356　　**電子メール**　info-buna@amail.plala.or.jp

Facebook　https://www.facebook.com/tadami.buna

付属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」・「ふるさと館田子倉」

開館時間：午前 9 時～午後 5 時（最終受付は午後 4 時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

入館料：高校生以上 310 円（20 人以上は団体割引）　小・中学生 210 円

只見町在住の小・中・高校生 無料